

日本人口学会第74回大会のお知らせ

2021年12月7日

日本人口学会第74回大会
大会運営委員長 衣笠智子
大会企画委員長 是川 夕

日本人口学会は、第74回大会を2022年6月11日（土）、6月12日（日）の2日間、神戸大学において開催いたします。会員の皆様はもちろん、人口にご関心のある研究者や学生の非会員の皆様にも積極的にご参加いただければ幸いです。

大会では、下記の通りシンポジウム、4つの企画セッション、1つのテーマセッションを設定しています。企画セッションにおける報告は組織者により編成されますが、テーマセッションでは報告が公募されますので、自由論題と同様に積極的にご応募ください。なお、会員総会、懇親会は6月11日（土）を予定しております。

セッションタイプ	セッションタイトル	組織者	使用言語	備考
シンポジウム	人口学の新たな視点—自然科学・人文科学・社会科学の観点から—	衣笠智子（神戸大学）	Japanese	一般公開(6/11)
企画セッション1	セクシュアリティ人口学の現在とこれから	釜野さおり（国立社会保障・人口問題研究所）	Japanese	
企画セッション2	人口動態モデルのフロンティア	岩澤美帆（国立社会保障・人口問題研究所）	Japanese	
企画セッション3	地域人口の分析方法：最近の成果と課題	清水昌人（国立社会保障・人口問題研究所）	Japanese	
企画セッション4	兵庫県豊岡市における外国人住民の暮らし・仕事・教育	平井晶子（神戸大学）	Japanese	
テーマセッション	社会格差とリプロダクション	小西祥子（東京大学）	Japanese	公募
自由論題セッション			Japanese /English	公募

*詳細は3ページ以降(パネル番号は、プログラム編成上、変更の可能性有)

【出欠の登録ならびに報告の応募】

報告の申込みの受け付けや大会への出欠に関する登録用 Web サイトは現在準備中です。準備ができ次第、学会メーリングリストを通じて改めてお知らせしますので、予めご検討ください。なお、大会へは非会員でも参加可能ですが、テーマセッションや自由論題での報告には日本人口学会の会員資格が必要です。また、シンポジウムと企画セッションの報告は公募ではありません。

【報告要旨の Web へのアップロード】

実効性のある報告内容の情報提供を図るため、要旨等の報告内容の情報はすべて学会メーリングリストやホームページを通じて閲覧ならびにダウンロードできるよう準備しております。報告要旨集の紙媒体による印刷・製本物の配布はいたしません。

【会場】

神戸大学六甲台第 2 キャンパス（〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1）

会場の地図ならびに交通アクセスは下記リンク先をご参照ください。

<https://www.kobe-u.ac.jp/guid/access/index.html>

参加費等のご案内は、開催校より改めてお知らせいたします。なお、現時点では対面、オンライン双方の可能性の下、準備を進めています。大会が近くなり、状況が固まり次第、最終的な決定をします。

【大会関連のお問い合わせ先】

*テーマセッションの内容については下記の組織者へ直接ご確認ください

テーマセッション組織者：小西祥子（東京大学）moe[atmark]humeco.m.u-tokyo.ac.jp

*その他については下記までお問い合わせください。

大会企画委員会（企画内容、報告登録など）

大会企画委員会・運営委員会 ML paoj2022[atmark]paoj.org

開催校（会場関係、報告設備、参加費支払など）

大会企画委員会・運営委員会 ML paoj2022[atmark]paoj.org

学会事務局（会員資格や入会手続き等について）

日本人口学会事務局（学会支援機構内）paoj[atmark]asas-mail.jp

<シンポジウム> (一般公開) *Symposium*

人口学の新たな視点—自然科学・人文科学・社会科学の観点から—

(2022年6月11日土曜日午後、神戸大学六甲台第2キャンパス)

組織者 衣笠智子 (神戸大学)

座長 平井晶子 (神戸大学)

趣旨

人口学の研究は、自然科学・人文科学・社会科学と幅広く、人口学事典でさまざまな分野が紹介されているように、多くのアプローチがある。しかし、その中でも、まだ十分に検討されていない領域があり、今後、新たな視点で研究をしていくことが重要である。また、他の分野の研究者も人口研究の重要性をより認識してほしいと思われる点も多くある。

開催校である神戸大学のある神戸は、世界に開かれた港湾都市であり、多様な価値観の人々が共同して生活している。また、神戸大学はその環境を生かし、「知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点」として進化・発展し続けることを長期ビジョンとしている。今回は、自然科学・人文科学・社会科学の分野の運営委員長という特徴を生かし、本人口学会であまり取り上げられてこなかったが、今後、より開拓すべき課題について議論する。新たな共同研究の出発点になることを期待する。

本シンポジウムは、下記4報告で構成されている。

1. 趣旨説明と経済学の視点 (衣笠智子 神戸大学)

まず、全体の趣旨と今回の講演の概要について説明する。その後、講演者の専門分野である経済学の視点について解説する。特に、国際貿易の観点に焦点を当てる。人口経済では、人口の消費、貯蓄、経済成長などの影響やその相互依存関係などが強調される傾向にあり、貿易はあまり検討されていない。また、経済学に国際経済学という主要分野があるが、人口的要素はあまり重視されてこなかった。しかし、人々の需要には、貿易しやすいものとしにくいものがあり、特に、高齢者や若年者は、介護、医療、保育、教育など、普通の財と比べて貿易しにくい財への需要が大きい。そのため、人口構造の変化は、貿易構造を変化しうる。ここで、人口変化が貿易にどのような影響を与えるか、理論的な考察や、計量的な分析結果について、紹介する。

2. 法学的観点 (講演者・内容未定)

3. 超高齢社会の well-being と心理学 (増本康平 神戸大学)

日本は現在、65歳以上人口が3,619万人(全人口の28.8%)という超高齢社会を迎えているが、高齢化は日本だけの問題ではなく、世界的にも急速に進展している。加えて、この70年間で平均寿命は30年以上伸び、人生100年ともいわれるようになった。このような人口の年齢構成の急激な変化の中で、加齢が人や社会に及ぼす影響を明らかにすることは、高齢者だけでなく全ての世代にメリットをもたら

す。本シンポジウムでは、人類がこれまで経験したことのない長期にわたる高齢期を、より良く生きる（well-being）ために何が大切なのか？心理学の研究からの知見を紹介する。

4. 人類学における人口学の展開（中澤港 神戸大学）

人類学における人口学の研究は、大きく4つに分けて考えることができる。化石人骨や遺跡から先史人類の人口規模や人口動態、年齢構造などを推定する考古人口学、霊長類の出生や死亡データから人類進化的な視点も含めて研究する霊長類人口学、遺伝子配列やゲノムデータを使って進化や系譜や多様性を議論する遺伝人口学、主に小集団を対象としたフィールドワークで得られるデータから文化や伝統、あるいは小集団ならではの確率的ゆらぎと人口規模や人口動態との関連を研究する、文化人類学的人口学とも呼ぶべき分野の4つである。それぞれの最近の展開について紹介したい。

<企画セッション1> *Panel Session 1*

セクシュアリティ人口学の現在とこれから

- ・ **提案者・組織者**：釜野さおり（国立社会保障・人口問題研究所）
- ・ **趣旨**：現在、原書房人口学ライブラリーで『セクシュアリティの人口学』（小島宏・和田光平編）の刊行が予定され、またいくつかの科研費プロジェクトでは人口学の文脈においてセクシュアリティを取り上げる研究がみられるようになっている。本セッションでは日本の人口学およびその関連領域で行われているセクシュアリティにかんする研究の Overview を提示する。人口学の重要なテーマであるにもかかわらず、日本においてはそれほど活発に行われてこなかったセクシュアリティ研究の現状を把握し、それを踏まえた上で、今後どのような研究が必要なのか、どのように研究を進めればよいのかを考えるきっかけとしたい。
- ・ **形式・構成**：非会員も含め、できるだけ多くの人・テーマをカバーする
報告時間：1人10分（16人登壇の場合16人×10分=160分）
討論：1人15分（2人×15分=30分）、趣旨説明5分、まとめ5分、休憩10分
（合計210分（3時間半）予定）
- ・ **想定されるテーマ**（現在、報告内容および報告者調整中）
人口学におけるセクシュアリティの位置づけ
 <性行動・性意識：主にシスジェンダー・ヘテロセクシュアリティに注目して>
結婚・出産と性交、セックスレスの人口学的考察、パートナー以外との性行動の人口学的考察、青少年の性意識と性行動、男性の性行動の研究、自己人工授精をめぐる人口学的課題
 <SOGIの人口学>
アセクシュアルの人口学的研究、LGB・Tの人口学的研究、SOGIの居住地域分布、SOGIと人口移動、SOGIと社会階層、SOGIと経済行動、SOGIと社会意識
 <家族形成・家族関係>
Xジェンダーと家族形成、レズビアン・バイセクシュアル女性の挙児と子育て、同性カップルの家族関係と生活実態、医療機関における家族とSOGI
 <調査法・調査>
社会調査における高年齢層のSOGIの捉え方、社会調査法とSOGI：ウェブ調査における回答傾向、センサスにおける同性カップル世帯

討論：小島宏（早稲田大学）、林玲子（社人研）

<企画セッション2> *Panel Session 2*

人口動態モデルのフロンティア *A frontier of demographic models for marriage, fertility, and international migration*

組織者： 岩澤美帆（国立社会保障・人口問題研究所）

座 長： 石井太（慶應義塾大学）

討論者： 鈴木透（韓国ソウル大学保健大学院客員教授）

趣旨：人口動態に何が起きているかを正しく理解するためには、人口学的メカニズムに沿い、関連する人口現象と統合的な分析枠組みが必要となる。モデルを工夫することによって、これまで全体像や総合的な動きしかわからなかった状況について、詳細な変化や変化の要因を特定できることがある。本セッションでは出生動向、国際人口移動、配偶関係構造に関して、より有用なモデル構築を検討し、最新の成果について議論したい。

第1報告では余田会員・岩澤会員が、年齢別出生率に代わり年齢別出生ハザードを用いて、年齢別パターンの変化と全体レベルの時系列変化に分解する方法を提案する。これは死亡率の推計方法として知られる Lee-Carter model の出生分析への応用となる。

第2報告では、是川会員より、国際人口移動に関して入国者のその後の滞在期間別出国ハザードを推計することで、入国者（グロス）からシステムチックに純入国者数を推計する方法を提案する。これは実際の移動過程に沿ったより精緻な推計を可能にするものである。

第3報告では、石井会員・別府会員らによる、配偶関係別将来人口推計に関する新たな方法論の検討に関する報告を行う。配偶関係の遷移に関しては、従来から多相生命表を用いた人口学的研究が蓄積されてきたところであるが、本報告ではこのような多相生命表の手法と初婚の年齢パターンに関する推計モデルを組み合わせることにより、初婚関数に関する将来推計で用いられる手法と整合性の高い配偶関係別将来人口推計に関する方法論を検討する。

最後に人口・世帯推計の手法に詳しい鈴木会員に討論をお願いし、有効なモデル構築や課題について議論する。

報告予定者と仮題：

1. 余田翔平・岩澤美帆（国立社会保障・人口問題研究所）・石井太（慶應義塾大学）「年齢別出生ハザードの特異値分解モデル」
2. 是川夕（国立社会保障・人口問題研究所）「入国外国人の出国ハザードからみる国際人口移動」
3. 石井太（慶應義塾大学）・別府志海・余田翔平・岩澤美帆（国立社会保障・人口問題研究所）・堀口侑（慶應義塾大学・院）「多相生命表を利用した配偶関係別人口推計」

鈴木透（韓国ソウル大学保健大学院客員教授）「討論」

<企画セッション3> *Panel Session 3*

地域人口の分析方法：最近の成果と課題

組織者： 清水昌人（社人研）

座長： 検討中

討論者： 山内昌和（早稲田大）、他1名（打診中）

趣旨

少子高齢化や人口減少により、日本の地域人口の状況は大きく変化したが、地域人口の分析方法においてもこの20年ほどの間に新たな進展が見られた。すなわち、最近では標準化指標や合計指標に新しい提案がなされるとともに、小地域統計の整備やGISの開発によりマルチレベル分析や空間統計分析などが実証研究に使われるようになった。しかしその一方、実際の研究では、依然として従来の人口学的指標の検討に留まる分析も多く、新しい動向に対する認知度は必ずしも高くない。

本企画セッションでは、とくに地域人口学とその関連分野の分析方法を取り上げ、最近の動向を概観する。また、方法論上の課題や地域人口の捉え方の問題を整理し、今後の研究の方向性を検討する。

来年2022年は1997年に設立された「地域人口研究委員会」の発足後25年の節目にあたる。この機会に発表者・討論者・傍聴者ととともに、改めて地域人口研究の現状と今後の展望について議論したい。

発表者：

鎌田健司（社人研）

中川雅貴（社人研）

丹羽孝仁（帝京大）

丸山洋平（札幌市立大）

<企画セッション4> *Panel Session 4*

兵庫県豊岡市における外国人住民の暮らし・仕事・教育

組織者 平井晶子

報告者 佐々木祐（神戸大学）

ほか3名程度（全員非会員）

（内容）

本企画セッションは、2019年から2021年にかけて、兵庫県豊岡市と神戸大学が共同で実施した外国人住民に関する調査研究にもとづく。この調査研究では、①外国人住民を対象とした家族、暮らしについてのアンケート調査、聞き取り調査、②事業所調査（外国人を雇用する事業所、雇用していない事業所）：外国人住民の雇用についてのアンケート調査および雇用している事業所への実態ならびに問題点などについての聞き取り調査、③外国にルーツのある子どもの教育に関する学校・園などの調査などを実施してきた。

すでに2019年度末に第一段の報告書を作成し、現在、第2段の報告書を作成中であるが、調査内容は広範囲で豊富な内容を含むため、報告書には書き切れていない内容や、その後の追加調査分も含めて報告する。

<テーマセッション> (公募) *Theme Session*

社会格差とリプロダクション

提案者 小西祥子 (東京大学)

座長 未定

趣旨

社会格差が健康格差をもたらしている可能性が、社会疫学分野の実証研究によって示唆されている。より具体的には、貧困や所得分布、職業階層、教育、社会関係といった社会的要因が、健康状態ならびに疾病や死亡のリスクと関連することが明らかになってきた。社会格差がリプロダクションに及ぼす影響を分析することは、リプロダクティブヘルス・ライツの観点からのみならず、現代社会の問題が未来の世代に及ぼしうる影響を理解するためにも重要である。しかしながら同分野において、社会的要因が出生に及ぼす影響についての研究は相対的に少ない。一方人口学の関連分野においては、教育や所得といった社会経済的状況が結婚や出生に及ぼす影響についての知見が蓄積されてきた。そこで本セッションでは社会格差あるいは社会経済状況と、出生およびその関連要因（結婚、不妊、性行動、避妊、不妊治療など）の関係についての報告を募集する。